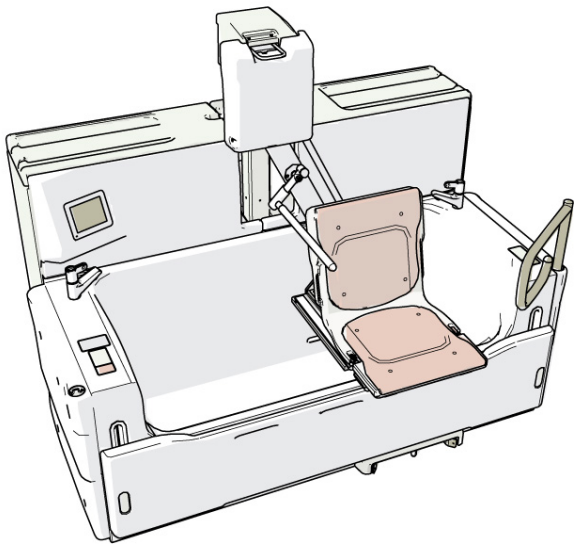
SAKAImed

ユニバス

UCB-100

取 扱 説 明 書



ご使用になる前に ····· 3
- 各部の名称 ····· 10
- 組み合わせ ····· 13
- 始業点検について ····· 14
- 入浴剤、保湿剤、薬液の使用について ····· 16

操作方法 ····· 17
- 電源の入切と、タンク内の残湯の処理 ····· 17
- 給湯システム ····· 20
- 湯温管理システム ····· 24
- 扉の開閉と排水 ····· 26
- リフトの昇降 ····· 28
- 縁手すり ····· 31
- 昇降手すり ····· 32
- 座面 ····· 34
- 安全ベルト ····· 36
- 昇降リフトの左右切り替え ····· 37
- 操作パネルの見方 ····· 38

●このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

●「取扱説明書」は

・1部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。
・1部を保存用として、大切に保管してください。

基本操作編

用 途

本製品は、介助を必要とする入浴者一人ひとりを、それぞれに合わせた入浴方法で、快適かつ容易に入浴させることのできる入浴装置です。

特 長

●省スペース設計

リフト昇降式ながら浴槽外寸をコンパクトに、内寸を広々と設計してあるので、ゆったりした入浴を提供することができます。

●1台3役！！ 自立～リフト～車椅子入浴まで対応が可能

またぎ動作を軽減する扉や、リフトなどの昇降機能に加え、車椅子に座ったままでの入浴も可能になりました。これにより幅広い介護度の入浴者を、安全かつ快適に入浴させることが可能になりました。

●まるで家庭の“お風呂”のようなデザイン

やさしい木目調のカバー、家庭の“お風呂”のようにお湯がはられた四角い湯船、スイッチ・表示類を最小限にとどめ、機械浴槽のイメージを一新しました。

●ワンタッチで湯はり

浴槽の扉下まで自動で湯はりすることができます。使用開始前に浴槽へ湯を貯める作業が簡単に、且つ湯量の監視が必要無く、効率よく行えます。タンクへの給湯も同時に行います。

●見やすく使いやすいタッチ式の操作パネル

入浴の方法や工程に合わせた画面が表示されます。操作方法や注意事項が表示され、直感的な操作が可能になりました。

本書に記載されている会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

ご使用になる前に

安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、各注意事項をよくお読みのうえ、
必ずお守りください。

表示について

危険や損害の程度を以下に区分し、表示しています。

⚠ 危険	取り扱いを誤ると、**「死亡または重傷を負うことに至る」**ことを示しています。
⚠ 警告	取り扱いを誤ると、**「死亡または重傷を負う可能性が想定される」**ことを示しています。
⚠ 注意	取り扱いを誤ると、**「傷害または物的損害の発生が想定される」**ことを示しています。

絵表示の意味

⃠ 禁止	行為を禁止することを示した表示です。
❗ 強制	必ず実行していただくことを示した表示です。

ご使用になる前に／安全上のご注意

電源・給湯水圧

⚠警告

電源の接続、及び修理は行わない

正しく接続しないと故障や事故の原因になります。

給湯水の接続、及び修理は行わない

正しく接続しないと水もれ等の故障や事故の原因になります。

給湯水圧は、適正圧力及び適正圧力比の範囲内である

湯・水の適正使用範囲は 150～200kPa（約 1.5～2.0kg/㎠）、圧力比は最大 2：1 です。
適正範囲を外れると給湯やシャワーの温度が変動し、やけどをする恐れがあります。
配管の破損や水漏れが発生する恐れがあります。

⚠注意

使用電圧は単相 100Ｖ ±5%の範囲内で使用する

使用電圧が指定範囲外の場合、機器の故障及び誤作動の原因となります。

リフトの操作

⚠警告

昇降リフト下降時の挟み込みに注意する

昇降リフトと浴槽底面の間に入浴者の手足が挟み込まれると、けがをする恐れがあります。
昇降リフト駆動部とタンク前面のカバーとの隙間に手などを置かないでください。
挟み込まれると、けがをする恐れがあります。

入浴中は絶対に昇降リフトの左右切り替えを行わない

入浴者が座面や車椅子と、浴槽内の壁面との間に挟み込まれ、けがをする恐れがあります。

昇降リフトの左右切り替えをするときは、浴槽内に入らない

ロックが外れて動いてきた昇降リフトに当たり、けがをする恐れがあります。

⚠注意

昇降リフトの左右の切り替えをするときは、浴槽内に何もないことを確認する

挟み込み等が発生し、故障の原因になります。

ご使用になる前に／安全上のご注意

扉の操作

⚠警告

扉を開閉するときは指先の挟み込みに注意する

扉を開閉するとき、扉と浴槽の間に指先が挟みこまれると、けがをする恐れがあります。

⚠注意

扉に体重をかけたり、乗ったりしない

機器が破損する恐れがあります。

座面への移乗、浴槽内へのスライド

⚠警告

縁手すりや昇降手すりは、入浴者に合わせてセッティングする

入浴者にとって適切な位置に手すりが設置されていない場合、転倒の恐れがあります。

入浴者が座面に座ったら安全ベルトを着用する

浴槽内にスライドさせる時や昇降リフトの作動中に姿勢が崩れ、けがをする恐れがあります。

座面を浴槽内へスライドさせるときはゆっくり行う

入浴者を浴槽内にスライドさせるときは、入浴者の体を支えてゆっくりスライドさせてください。
急いでスライドさせると転倒などの原因になります。

⚠注意

扉を閉めるときは座面を浴槽内へ最後までスライドさせる

最後までスライドさせないで扉を閉めると、機器が破損する恐れがあります。

ご使用になる前に／安全上のご注意

車椅子の連結操作

⚠警告

車椅子を浴槽へ連結後、操作パネルの表示を確認する

連結が不十分だと、車椅子の脱落などの原因になります。

車椅子を浴槽に連結した後は、キャスターをロックする

キャスターがロックされていないと、車椅子上部の脱落などの原因になります。

車椅子のスライドレバーは、浴槽と車椅子の連結を確認するまで操作しない

連結が不十分な場合、車椅子上部が脱落する恐れがあります。

⚠注意

車椅子を浴槽へ連結させるときは、車椅子の向きに注意する

反対向き（浴槽の操作パネル側へ車椅子のヘッドレストがくる向き）では、入浴できません。

車椅子を連結部の範囲内にくるように移動してから、車椅子を浴槽に最後まで押し付ける

連結部の範囲外で車椅子を押し付けると、車椅子が浴槽に当たり、車椅子や浴槽が破損する恐れがあります。

車椅子の連結解除操作

⚠警告

車椅子上部が浴槽、または車椅子下部に連結されたことを確認するまで連結解除ペダルを踏まない

連結されていないと、車椅子上部の脱落事故の原因になります。

浴槽と車椅子の連結解除後は、速やかに連結解除ペダルから足を離す

踏み続けたり、体重を乗せたりすると、車椅子が傾いたり転倒する恐れがあります。

⚠注意

車椅子の連結解除ペダルには極端な荷重をかけない

連結解除ペダルのフレームが変形、あるいは破損する恐れがあります。

車椅子上部の浴槽⇔車椅子下部間の移動

⚠警告

車椅子の移動は、最後まで手を添えた状態でゆっくりと行う

移動中に手を離すとロック時の衝撃が強く、入浴者に不安感を与えてしまいます。
繰り返し勢いよく車椅子上部を押すと、車椅子上部が破損し落下事故の原因になります。

車椅子上部を移動させ始めたら、スライドレバーから指を離す

レバーを引いたまま移動させると、車椅子上部が正規の位置でロックされず脱落する恐れがあります。

車椅子上部を浴槽または車椅子下部に連結した後は、車椅子上部を押し引きして連結を確認する

車椅子上部が連結されていない状態で作業を進めると、車椅子上部が脱落する恐れがあります。

入浴者の手の挟み込みに注意する

車椅子上部を浴槽へ移動する際には、アームサポートの外側へ入浴者の手が出ていないことを確認してください。手が挟まれけがをする恐れがあります。

⚠注意

レール台の上に物を置かない

車椅子上部を浴槽内へ移動するときに、挟み込み等を起こして思わぬ故障の原因になります。

車椅子上部をチルトした状態で浴槽内にスライドさせる

レッグレストやフットレストが浴槽に当たり、車椅子や浴槽が破損する恐れがあります。

ご使用になる前に／安全上のご注意

入浴・出浴

⚠警告

入浴前に、浴槽内の湯温を手で確認する
やけどの恐れがあります。

たし湯や差し湯を行うときは、「タンク内湯温」「差し湯温度」表示と手で確認する
給湯、給水の水圧の急変により、一時的に給湯温度が変わる恐れがあります。

入浴中に高温の湯を差し湯するときは、入浴者の足先にかからないように注意する
差し湯は高温時でも自動停止しないため、やけどの恐れがあります。

たし湯する際は入浴者の体格に合わせて湯量を調節する
湯量が適切ではない場合、水没する恐れがあります。

入浴中は入浴者の状態を常に看視する
入浴中に入浴者の姿勢が崩れた場合、水没する恐れがあります。

⚠注意

昇降リフトを作動させるときは、物の挟み込みがないことを確認しながら行う
浴槽の中などに手桶やタオル等があると、挟み込み等を起こし故障の原因になります。

シャワー※

⚠警告

入浴者にシャワーをかけたままの状態で離れない
介助者が離れている間に温度が急変した場合、やけどをする恐れがあります。

シャワーを入浴者にかける前や使用中にも手で温度を確認する
給湯・給水の水圧の急変により、シャワーの温度が急に変わることがあります。
温度調節後は、設定温度になるまで湯を出し続けてください。

ハンドシャワーで高温のお湯を使用した後は、温度調節ハンドルを適温位置に戻す
温度調節ハンドルを高温側のままにすると、次に使用するときにやけどをする恐れがあります。
低温側に回して、適温になるまで湯を流してください。

⚠注意

流量調節ハンドルはゆっくり操作する
流量調節ハンドルを止まる側に急に回すと、水圧が高くなり配管から水漏れを起こす原因になります。

シャワー使用後は、シャワーの開閉ボタンを「開く」の状態にしたまま、流量調節ハンドルでシャワーを止める
開閉ボタンにて長時間止水させた場合、水漏れする恐れがあり、シャワーヘッドの寿命が短くなります。

※　ハンドシャワーオプション UCB-10 付の場合

ご使用になる前に／安全上のご注意

入浴剤・保湿剤

⚠注意

硫黄成分の入った入浴剤は、使用しない

ご使用になると、浴槽の金属部が腐食等を起こしたり、浴槽表面の光沢を失ったりする恐れがあります。

粉末状の入浴剤は使用しない

ご使用になると、溶け残ったものが配管内に付着して故障の原因になる恐れがあります。
どうしても粉末状の入浴剤を使用したい場合は、別容器でよく溶かしてから使用してください。
ただし、粉末状の入浴剤を使用したことによる故障については、保証期間内の製品でも保証対象となりませんのでご注意ください。

着色剤が入った入浴剤を使用する際は着色に注意する

色が付くことがありますのでご注意ください。

ミネラルオイル（流動パラフィン）が含まれた製品を使用しない

マットやヘッドレストに付着すると、シワが発生します。

使用後

⚠注意

使用後は、浴槽内の湯を排水し清掃する

水垢などが浴槽にこびりつき、汚れが落ちにくくなります。

使用後は、換気を行い室内の湿度を下げる

湿気による錆やかびなどの発生を抑えます。

その他

⚠注意

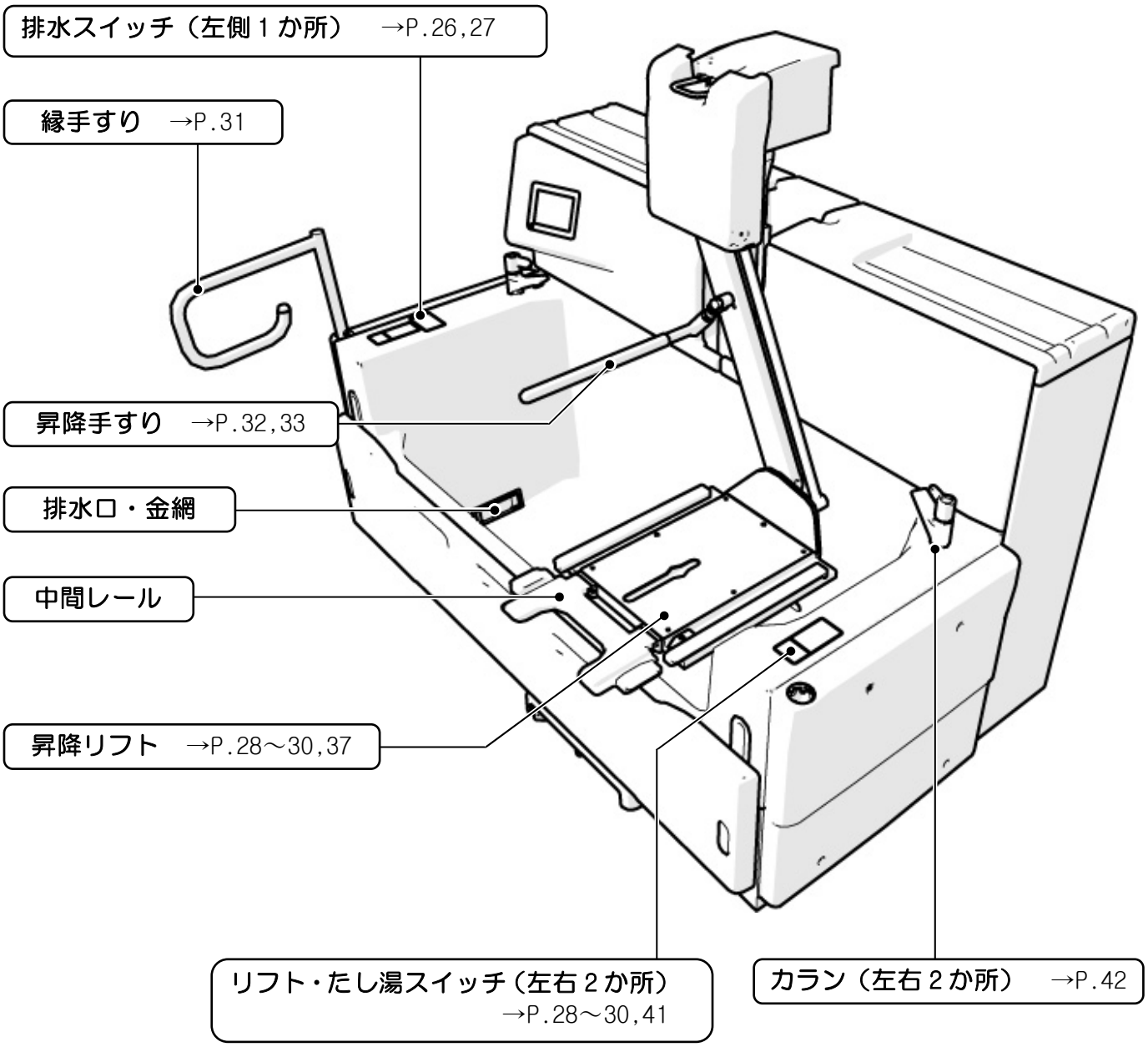
心臓用ペースメーカーを使用している方を入浴させるときは、医師に相談する

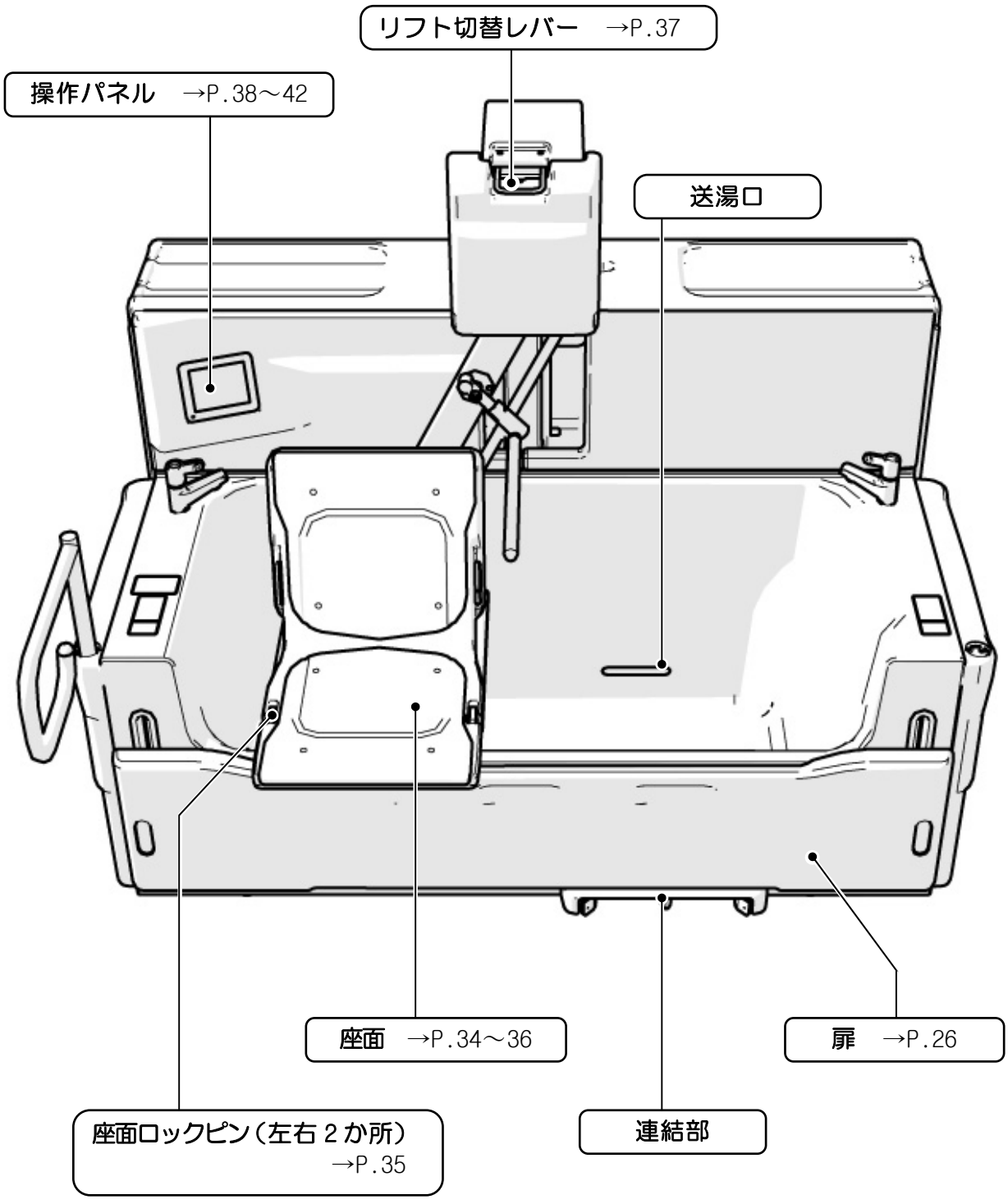
本製品が、ペースメーカーに影響を与えることがあります。

ご使用になる前に

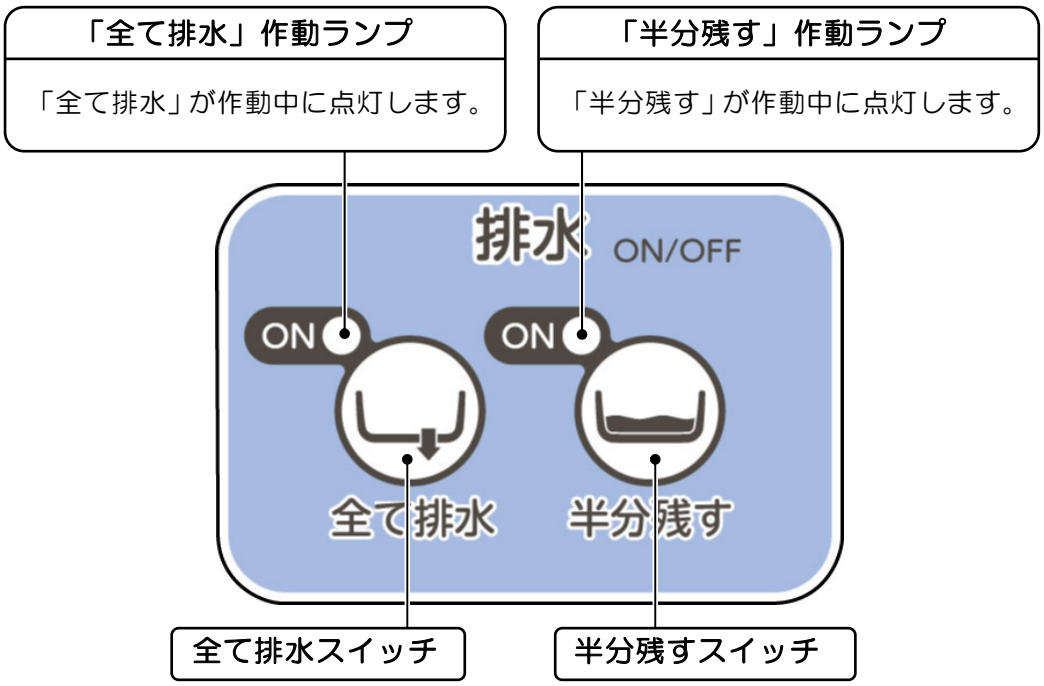
各部の名称

浴槽本体

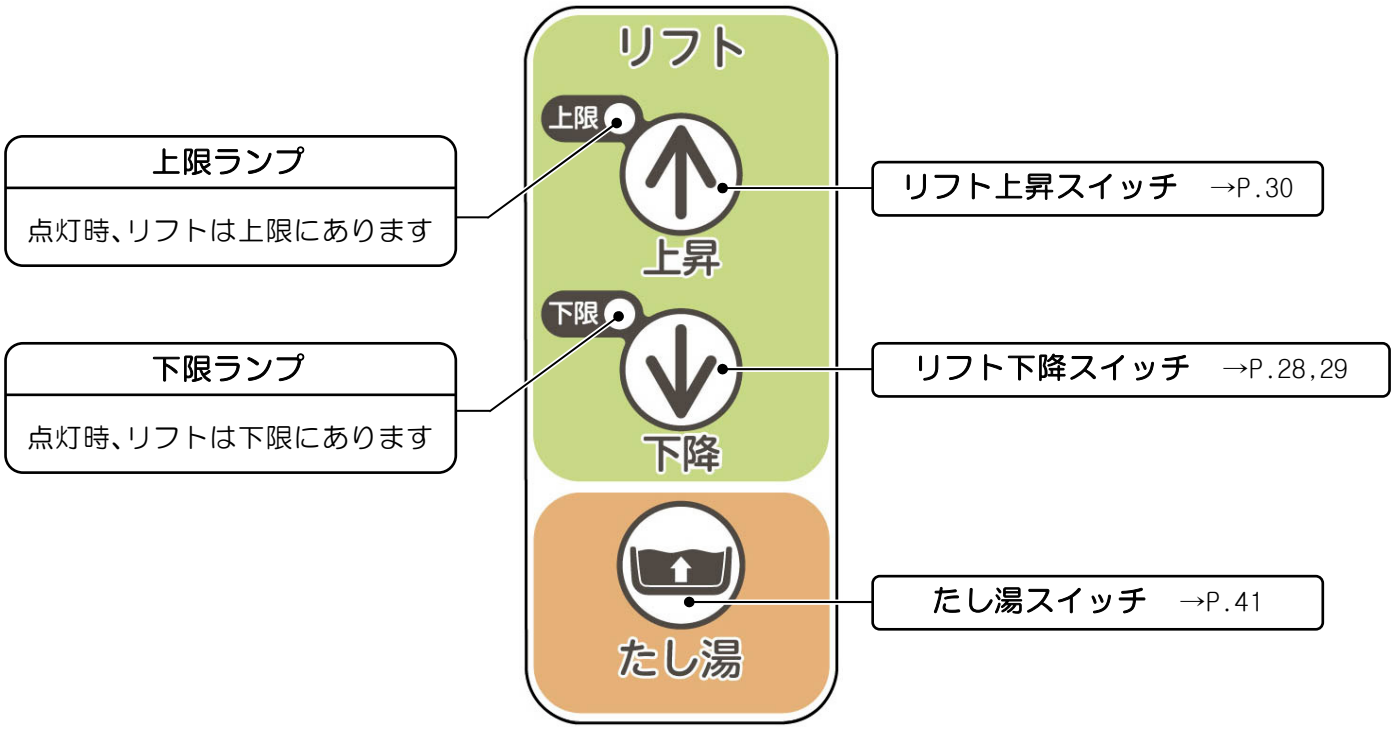



リフト切替レバー　→P.37
操作パネル　→P.38～42
送湯口
座面　→P.34～36
扉　→P.26
座面ロックピン（左右 2 か所）
→P.35
連結部

排水スイッチ



リフト・たし湯スイッチ



ご使用になる前に

組み合わせ

浴槽の種類

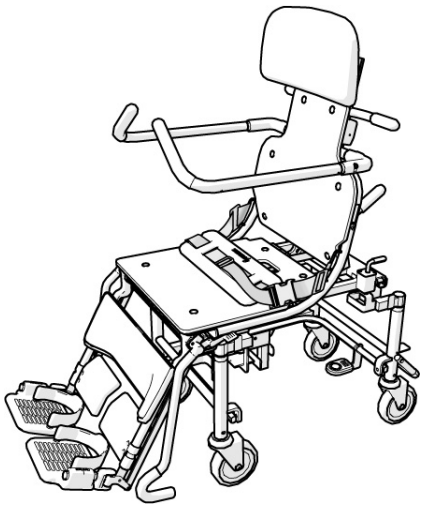
・浴槽　・・・・UCB-100

・ハンドシャワー（オプション）※　・・・・UCB-10

※オプション品につきましては、メーカーオプション対応になります。

周辺装置

・入浴用車椅子　・・・・UCB-110C



浴槽と入浴用車椅子を組み合わせて使用します。
操作方法については、各々の取扱説明書をご覧ください。

ご使用になる前に

始業点検について

ご使用前に**始業点検項目**にもとづき、始業点検を実施してください。

①浴槽の周囲に障害物はありませんか？

②カバーの外れ、ガタつき、取付ネジの緩み、脱落はありませんか？

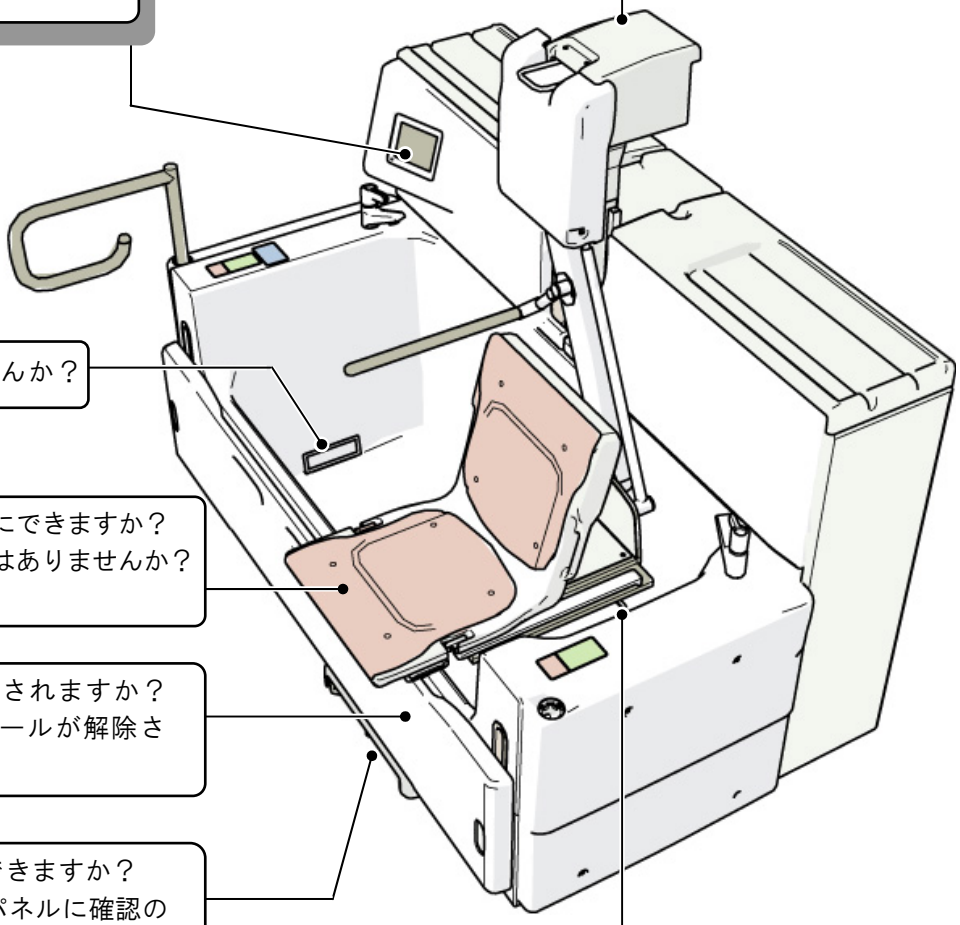
③昇降リフト・車椅子連結部のガタつき、取付ネジの緩み、脱落はありませんか？

⑥操作パネルが極端に暗くなっていませんか？

⑦設定した温度と、実際の湯温･温度表示が極端に違っていませんか？

⑧シャワーの温度調節ハンドルを回したとき、シャワーの温度が調節されますか？（オプション）

⑫扉を閉めた状態で昇降リフトを作動させたとき、異常はありませんか？
また昇降リフトが上限・下限のときに、上限・下限のランプは点灯しますか？



⑬縁手すり・昇降手すりがロックされますか？

④排水口・金網にゴミはありませんか？

⑨座面のスライドや回転はスムーズにできますか？
座面の取り付け・取り外しに異常はありませんか？
座面の固定はできますか？

⑩扉を閉めたときに自動でシールされますか？
排水スイッチを押したときにシールが解除されますか？

⑪車椅子連結解除動作は問題なくできますか？
また連結時・連結解除時に操作パネルに確認の表示がされますか？

⑤送湯口からお湯が漏れていませんか？

点検の際は、本ページをコピーしてご使用ください

始業点検項目：ユニバス　浴槽（UCB-100）　　点検日　　年　　月　　日

	項目	点検内容	点検方法	チェック	備考
電源投入前	①	周囲の障害物の有無	目視	□ OK・□ NG	
	②	カバーの外れ、ガタつき、取付ネジの緩み、脱落	目視 及び触って確認。	□ OK・□ NG	
	③	昇降リフト・車椅子連結部のガタつき、取付ネジの緩み、脱落	目視 及び触って確認。	□ OK・□ NG	
	④	排水口・金網のゴミの有無	目視	□ OK・□ NG	
電源投入後	⑤	送湯口からの湯の漏れ	目視	□ OK・□ NG	
	⑥	操作パネルの点灯	目視	□ OK・□ NG	
	⑦	差し湯温度表示と湯温の確認	差し湯温度設定を高温・低温に設定し、温度表示と湯温が極端に違っていないかを確認。	□ OK・□ NG	
	⑧	シャワー水栓の温度調節※	シャワーを出しながら温度調整ハンドルを回し高温・低温の調節が可能か手で確認。 **（確認後、40℃前後の適温に戻すこと）**	□ OK・□ NG	
	⑨	座面シートの取り付け	・座面シートの取り付け・取り外しに異常がないことを確認。 ・取り付け後のスライド、回転動作に異常がないことを確認。 ・回転止めに異常がないことを確認。	□ OK・□ NG	
	⑩	扉の開閉及び、排水動作の確認	・扉を閉めて、自動でシールされることを確認。 ・排水スイッチで扉シールが解除されたことを確認。（車椅子で入浴時は、リフトが上限にあり、車椅子下部が浴槽に連結した状態のこと） ・排水スイッチの動作と排水ランプに異常のないことを確認。	□ OK・□ NG	
	⑪	連結・連結解除動作	・車椅子を浴槽に連結し、連結動作に問題ないことを確認。（連結後、操作パネルの連結完了表示を確認。） ・車椅子の連結解除ペダルを踏み、車椅子の連結が解除できることを確認。（操作パネルの連結解除表示を確認。）	□ OK・□ NG	
	⑫	昇降リフトの動作	・扉を閉めリフト上昇・下降スイッチを押して、昇降リフトの動作に異常が無いことを確認。 ・昇降中に異音が発生しないことを確認。 ・リフト上限/下限ランプの点灯を確認。	□ OK・□ NG	
	⑬	縁手すり・昇降手すりのロック	しっかりとロックされることを触って確認。	□ OK・□ NG	

※　ハンドシャワーオプション UCB-10 付の場合

これ以外でも部品が破損しているなど、日頃お使いになられていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、電源を切って最寄りの営業所にご連絡ください。尚、故障中は故障した機器を誤って使用しないように、周囲の方が分かるように表示（故障中の貼り紙等）をお貼りください。

ご使用になる前に

入浴剤、保湿剤、薬液の使用について

入浴剤について

入浴剤は液状のものを使用してください。
入浴剤を使用する場合は、入浴剤の使用上の注意をよく読んで、浴槽（FRP）や配管等に悪影響を及ぼすような成分（硫黄等）が入っていないことを確認ください。

⚠ 注意

・硫黄成分の入った入浴剤は、使用しない

ご使用になると、浴槽の金属部が腐食等を起こしたり、浴槽表面の光沢を失ったりする恐れがあります。

・粉末状の入浴剤は使用しない

ご使用になると、溶け残ったものが配管内に付着して故障の原因になる恐れがあります。
どうしても粉末状の入浴剤を使用したい場合は、別容器でよく溶かしてから使用してください。
ただし、粉末状の入浴剤を使用したことによる故障については、保証期間内の製品でも保証対象となりませんのでご注意ください。

・着色剤が入った入浴剤を使用する際は着色に注意する

色が付くことがありますのでご注意ください。

ミネラルオイルについて

本製品で入浴剤や保湿剤を使用する場合、ミネラルオイルが含まれていないものをご使用ください。

⚠ 注意　ミネラルオイル（流動パラフィン）が含まれた製品を使用しない

マットやヘッドレストに付着すると、シワが発生します。

操作方法

電源の入切と、タンク内の残湯の処理

電源を入れる

1. 配電盤内にある専用の安全ブレーカーを ON にします。

安全ブレーカーを ON にすると、操作パネルが点灯します。

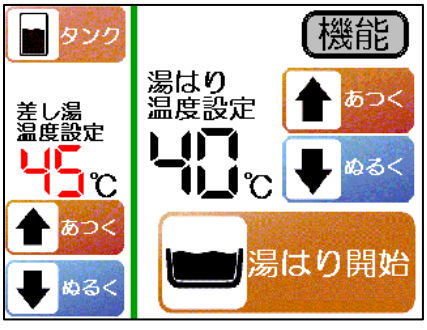
2. タンク内の残湯を排水します。

タンク内に低温（36℃未満）のお湯が残っている場合は強制排水、36℃以上のお湯が残っている場合は、手動排水の画面が操作パネルに表示されます。
残湯を排水する場合は、はいをタッチ、排水しない場合は、いいえをタッチし、画面をスキップします。

※ タンク内に残湯が検知されない場合は、
3.「湯はり画面」へスキップします。

> ⚠ **注意　電源投入時は浴槽内に入ったり、浴槽内に物を置いたりしない**
> 「強制排水」時は浴槽側からも排水しますので、注意してください。

3. 操作パネルが「湯はり画面」へ切り替わったことを確認します。



操作方法／電源の入切と、タンク内の残湯の処理

操作パネルのランプが赤（休止モード）から電源を入れる

1. 操作パネルの画面をタッチします。

2. 操作パネルの点灯を確認します。

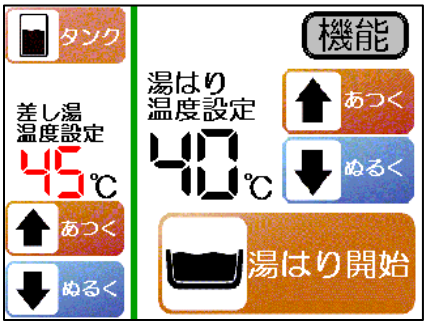
操作パネル左下のランプが、赤色から緑色の点灯へ変わります。

3. 操作パネルの画面を２秒以上タッチします。

何も入力されない状態が続くと、ランプが再び赤色の点灯へ変り、休止モードへと戻ります。

4. 「湯はり画面」に切り替わったことを確認します。

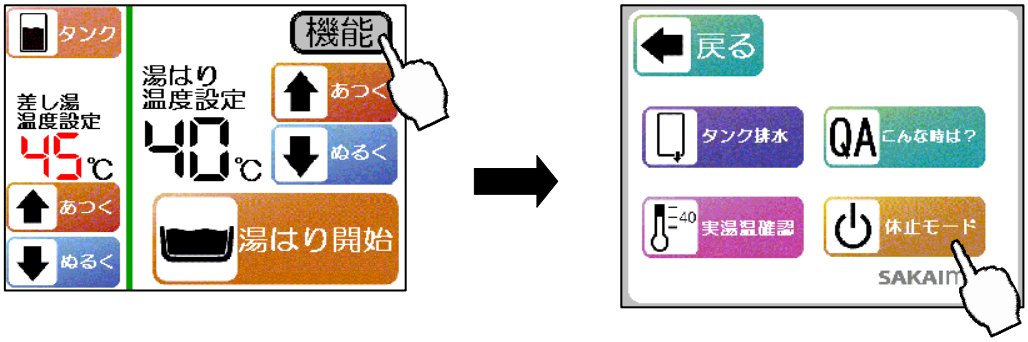
タンク内に残湯がある場合は「排水画面」へ切り替わります。
排水後、「湯はり画面」へ戻ります。



操作方法／電源の入切と、タンク内の残湯の処理

電源を切る（休止モード）

1. 機能をタッチして「機能画面」を表示し、休止モードを選択します。



2. 休止モードまたはおまかせ終了を選択します。※1 秒以上長押してください。

タンク排水、浴槽排水を自動で行います。1 日の入浴作業終了後の清掃時などに、最適なモードです。

浴槽電源のみ、OFF します。
お昼休みなどの節電、誤操作防止対策などに最適なモードです。

3. 配電盤内にある専用の安全ブレーカーを OFF にします。

> ⚠ **注意　電源ランプが赤に変わってから、配電盤内にある専用の安全ブレーカーを切る**
> 安全のため、順番通りに電源を切ってください。

操作方法

給湯システム

本製品は入浴作業の効率化のため、貯湯タンクを内蔵しています。
タンクへの給湯は、浴槽への湯はりと連動しており、湯はりとタンクへの給湯がワンタッチ操作で簡単に行うことができます。
また、入浴中（扉のシール面が閉まっている間）には、静かで快適なお風呂の時間を演出するため、タンクへの給湯は停止（休止）します※1。
給湯方式には、入浴 1 回につき、お 1 人分のお湯を貯める「フォー・ワン方式」と
入浴時間中、常に給湯し続ける「フォー・オール方式」のいずれかをお選び頂けます※2。

※1.入浴中以外に、差し湯使用中もタンク給湯は休止します。
※2.出荷時は「フォー・ワン方式」に設定されています。設定の変更は弊社営業所へご用命ください。

フォー・ワン タイプ（出荷時設定）

入浴 1 回につき 1 回分のお湯（タンク 2 個分）を給湯します。
入浴者お 1 人ごとの好みに合わせた湯温を設定することができます。

湯はりをタッチするとタンク給湯を開始し、 1 回目のタンク満水で、浴槽の扉開放位置までお湯はりします。（目安時間約 10 分）
その後、再びタンク満水まで給湯して自動停止します。

フォー・オール タイプ

タンクに使った分だけお湯を自動で継ぎ足し続ける給湯方式です。
入浴中及び差し湯使用中以外は常にタンクへ給湯し続けるため、湯はりするまでの待ち時間が少なく、効率のよい入浴作業をサポートできます。

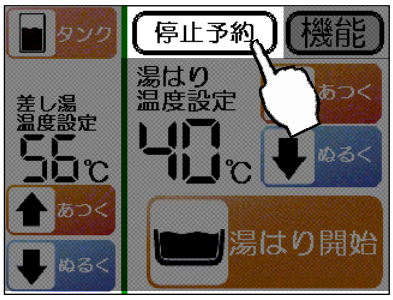
湯はりを 1 回タッチ、または「タンク機能画面」（P.39）の給湯をタッチすると、タンク給湯を開始し、以降、自動的にタンク満水まで給湯し続けます。
※湯はりをタッチしてから湯はり完了までの時間は、初回（タンクが空の状態）のみ約 10 分、2 回目以降はたし湯の使用量によって異なり、 0 ～10 分が目安です。湯はり完了後、再びタンク満水まで給湯して自動停止します。
※タンクが満水になっても湯はりをタッチしないと浴槽への湯はりは行われません。

タンクへの給湯を停止する

給湯を停止するには、「タンク機能画面」（P.39）の停止をタッチします。
また、「フォー・オールタイプ」を設定時のみ、「湯はり画面」（P.22）の「停止予約」を有効にすることで、最後の入浴者１人分のお湯を貯め終わった後、自動停止する機能もあります。

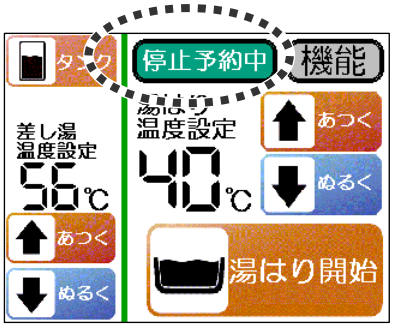
1. 湯はり開始の前に停止予約をタッチします。

※出荷時、あるいはフォー・ワンタイプ設定時には表示されません。



2. 停止予約中に表示が変わっていることを確認します。

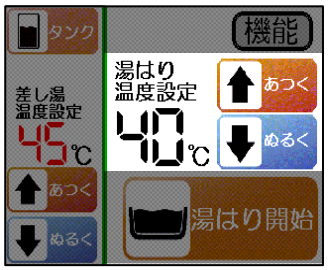
設定後、湯はり開始をタッチしてください。
フォー・ワンタイプ給湯と同様に、湯はり後、再びタンク満水になった時点でタンクの自動給湯が解除されます。



湯はりをする

1. 温度設定をします。

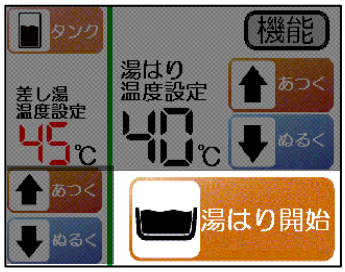
あつく、ぬるくをタッチし、お好みの設定温度に設定します。（36℃～47℃まで設定できます）



2. 湯はり開始をタッチして、給湯を開始します。

タンク内へ給湯を始めます。

タンクが既に満水の場合には、4.「自動送湯」（P.23）へ進みます。



参考

給湯開始直後は、本製品に供給されるお湯の温度が不安定な状態であるため、給湯開始から数分間は自動でタンク内のお湯（水）を排水する場合があります。

> ⚠ **注意　湯はり開始をタッチする前は浴槽内に何もないことを確認する**
>
> 注水の勢いによって異物が浴槽壁面などに当たり、破損する可能性があります。

3. 湯はりをやめるときは、給湯停止をタッチします。

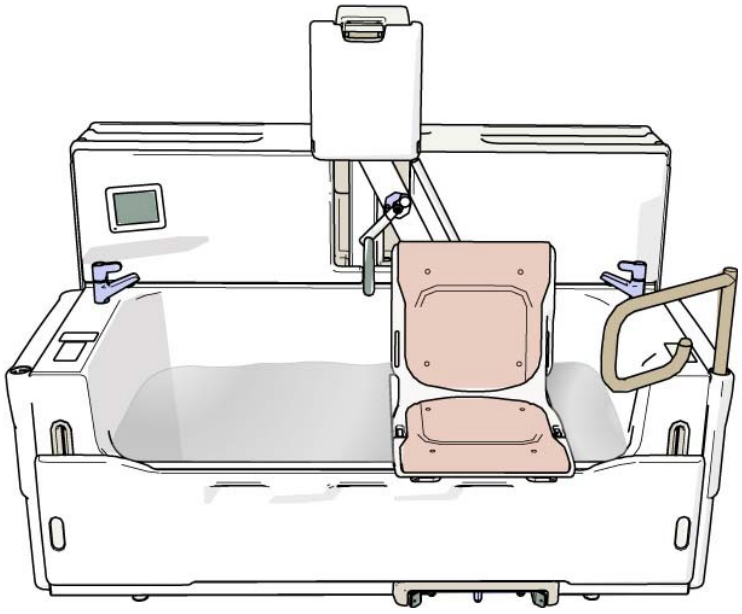
1.「湯はり画面」へ戻ります。

4. タンクが満水になると、自動的に浴槽へお湯が送られます。

一時停止/湯はり再開で自動送湯の一時停止/再開ができます。

5. 扉の開放位置までお湯が貯まると、湯はりが完了します。

タンク給湯は継続されます。戻るをタッチすると給湯を停止して「湯はり画面」へ戻ります。



参考

湯はり完了後、すぐに入浴することは可能ですが、扉の開放位置より上の部分（残り半分）のお湯はタンクへ給湯中の状態です。

※タンク満水までに約 10 分かかります。

入浴中、たし湯（P.41）をしてもお湯が足りなくなった場合は、差し湯（P.42）でお湯を足してください。

操作方法

温度管理システム

本製品には、タンクへの給湯は、低温または高温の湯を自動的に停止（一定時間内に自動復帰）させ、浴槽内への湯はり/たし湯は、低温または高温の湯の送湯を自動停止させる、温度管理システム機能が内蔵されています。
入浴可能な温度範囲は下記の通りです。

<table>
<tr><th></th><th>～35℃</th><th>36℃～43℃</th><th>44℃～45℃</th><th>46℃～47℃</th><th>48℃～</th></tr>
<tr><td>タンク給湯</td><td>設定不可
（給湯停止）</td><td>設定可能</td><td colspan="2">設定可能
（給湯温度 点滅）</td><td>設定不可
（給湯停止）</td></tr>
<tr><td>湯はり/たし湯</td><td>不可</td><td>可能</td><td>可能
（タンク内湯温 点滅）</td><td colspan="2">不可</td></tr>
<tr><td>差し湯</td><td colspan="5">設定可能
（25℃～50℃まで設定可能 44℃以上で差し湯温度点滅、高温時（46℃以上）は警告表示）</td></tr>
</table>

参考

タンク給湯の温度異常による給湯停止は、連続 3 回まで自動復帰します。停止の回数が、3 回を越えると操作パネルにエラーが表示され、手動による復帰が必要になります。

⚠ **警告　差し湯中は入浴者から目を離さない**

差し湯は高温時でも自動停止しないため、やけどの恐れがあります。

操作方法／温度管理システム

給湯が停止した場合

タンク内へ高温の湯（48℃以上）または低温の湯（35℃以下）が給湯された場合、
温度管理システムが作動し、タンク給湯が停止します。

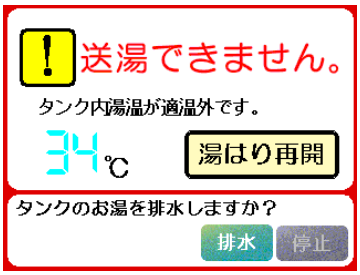
給湯再開をタッチして、給湯を再開してください。
必要に応じて、温度設定を再設定します。
・温度設定を 47℃（36℃）付近にすると、給湯水圧のわずかな
　変動により温度が上がり（下がり）過ぎることがあります。

※高温（48℃以上）で停止した場合のエラー画面

浴槽への送湯が停止した場合

浴槽内へ高温の湯（46℃以上）または低温の湯（35℃以下）が送湯された場合、
温度管理システムが作動し、送湯が停止します。

湯はり再開をタッチして、湯はりを再開してください。
必要に応じて、画面下側の排水をタッチしてタンク内の熱い
（ぬるい）お湯を排水してください。



操作方法

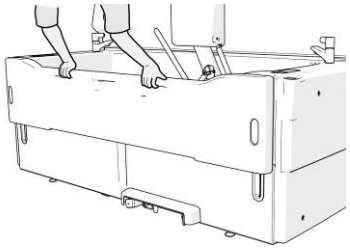
扉の開閉と排水

扉は手動で開閉します。扉のシールは、水位が扉の開放位置まで排水されるとシールが解除され、扉を開けられる仕組みになっています。

扉を閉める

1. 扉を上限まで持ち上げます。

扉を上限まで持ち上げます。上限で扉はロックされます。



2. 自動で扉がシールされます。

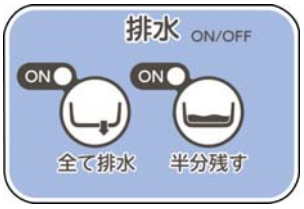
扉が上限になると自動的に扉と浴槽との間がシールされます。
※浴槽の排水栓も連動して閉じます。
※タンク給湯中に扉がシールされるとタンクへの給湯は自動で停止します。

> ⚠ **注意　扉に体重をかけたり、乗ったりしない**
> 機器が破損する恐れがあります。

扉を開ける

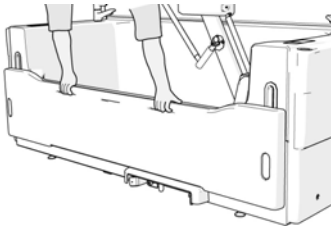
1. 浴槽縁にある排水のスイッチを１秒以上押します。

全て排水または半分残すのスイッチを押すと、水位が扉の開放位置まで排水されてから扉のシールが解除されます。
車椅子で入浴されている場合で、車椅子下部が浴槽に連結されていない状態と、リフトが上限にないときは扉のシールは解除されません。車椅子下部を連結し、リフトを上限にしてください。

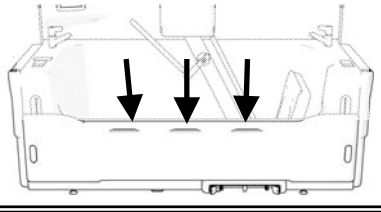


2. シール解除後、扉を下げます。

シールが解除されても扉はロックされています。扉を下げる際には一度持ち上げ、ロックを解除してから扉を下げてください。



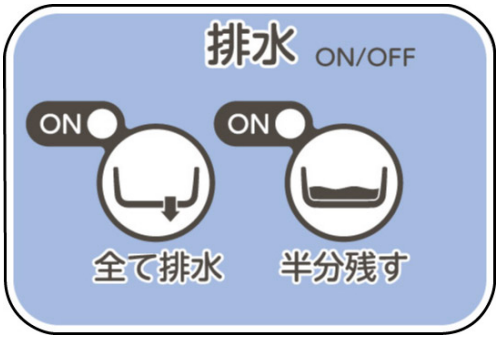
> ⚠ **注意　扉の開閉は、必ず凹んでいる部分のいずれか２か所を持つ**
> 扉のロックやロック解除されないことがあります。また中間レール等に指が当たりけがをする恐れがあります。



操作方法／扉の開閉と排水

2種類の排水方法

２種類の排水方法を選ぶことができます。必要に応じてそれぞれのスイッチで選択してください。



浴槽内のお湯を全て排水する

浴槽縁の全て排水スイッチを１秒以上押してください。
排水栓が開いている間、スイッチ左上のランプが点灯します。
※全て排水をすると次の入浴者のための給湯の待ち時間が長くなります。効率よく入浴作業を行いたい場合や、全て排水する必要が無い場合は半分残すを選択することをお勧めします。

浴槽内のお湯を半分残して排水する

浴槽縁の半分残すスイッチを１秒以上押してください。
排水栓が開いている間、スイッチ左上のランプが点灯します。扉の開放位置より
水位が下がると自動的に排水栓が閉じ、ランプも消灯します。

排水を止める

どちらかのスイッチ左上のランプが点いている状態で、排水のどちらかのスイッチを
１秒以上押してください。
※湯はり開始をタッチする、または扉を閉めることでも、排水栓を閉じることができます。

排水栓が開かない場合の対処方法（排水ランプが点滅します。）
・排水を止め、もう一度、排水スイッチを押してください。

操作方法

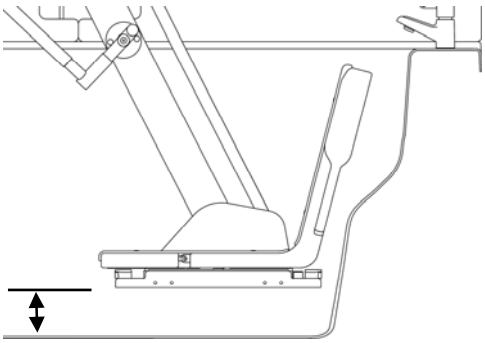
リフトの昇降

リフトの昇降によって安全に負担無く入浴を行うことができます。

リフトを下げる

1. 浴槽縁の下降スイッチを押している間だけ、
リフトが下がります。
浴槽の扉が開いているときに下げる場合は次ページ（P.29）をご覧ください。通常はリフトを下降させることができません。

2. 浴槽底面の 100㎜ 上で一旦停止し下限ランプが点滅します。
入浴者の手や足の挟み込み等が無いことをもう一度確認してから再度下降スイッチを押してください。



浴槽の底から 100㎜ 上で一旦停止します

3. リフトが下限に達すると、リフトは自動停止し、
下限ランプが点滅から点灯に変ります。

⚠ **警告　昇降リフト下降時の挟み込みに注意する**
昇降リフトと浴槽底面の間に入浴者の手足が挟み込まれると、けがをする恐れがあります。
昇降リフト駆動部とタンク前面のカバーとの隙間に手などを置かないでください。
挟み込まれると、けがをする恐れがあります。

⚠ **注意　リフトを下降させるときは、座面や車椅子上部を最後までスライドさせ、中間レール上に何もないことを確認する**

操作方法／リフトの昇降

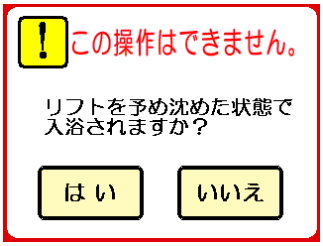
扉を開けたままリフトを下げる

通常、浴槽の扉が開いている状態では、リフトを下降させることはできません。
以下の手順でリフト下降のロック（制限）を解除してください。

1. 扉が開いている状態で、浴槽縁の下降スイッチを 2 秒以上押します。

2. 右図の画面がパネルに表示されたら、はいをタッチします。

※いいえで前画面へ戻ります。



3. 下降ロックが解除され、上限ランプと下限ランプが点滅します。

※リフトが上限/下限にあると上限/下限ランプは点灯に変わります。

4. リフトを上昇・下降スイッチで適切な高さにします。

スイッチから手を離して 10 秒ほど経過すると、自動的に再び下降ロックがかかります。

> ⚠ **警告　リフト下降ロックの解除中は、浴槽への移乗をしない**
> スイッチに誤って触れた場合、リフトが意図せず、動く場合があります。

操作方法／リフトの昇降

リフトを上げる

1. 浴槽縁の上昇スイッチを押している間だけ、
リフトが上がります。

2. またリフトが上限に達すると、上昇スイッチの
左上にある上限ランプが点灯します。

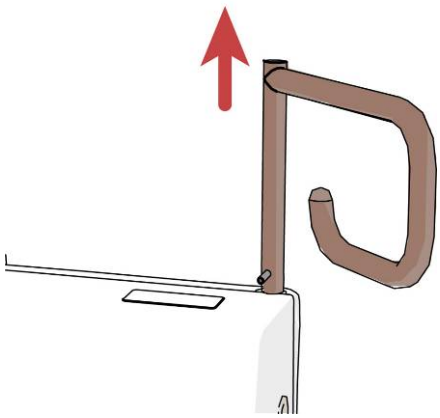
操作方法

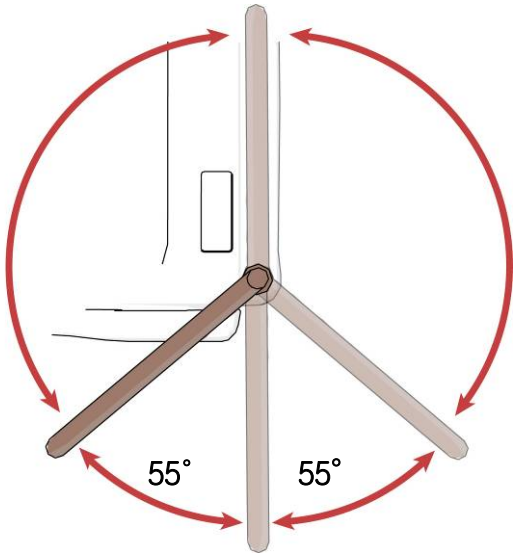
縁手すり

入浴者ご自身での立ち座りを補助するために、浴槽縁に手すりを備えています。
容易に角度調節でき、入浴者の容態に合わせ左右に付け替えることが可能です。

角度調節

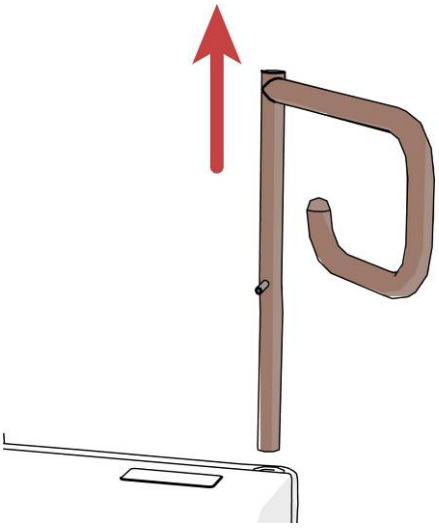
手すりを持ち上げてロックを解除し、元の高さまで下ろすとロックされます。
固定できる角度は右図の通りです。





左右の付け替え

手すりを完全に引き抜き、反対側の穴へ差し込んでください。



⚠ **警告　縁手すりがしっかりロックされ、回転しないことを確認する**

しっかりロックされていないと、入浴者がつかんだ際に回転し、転倒する恐れがあります。

操作方法

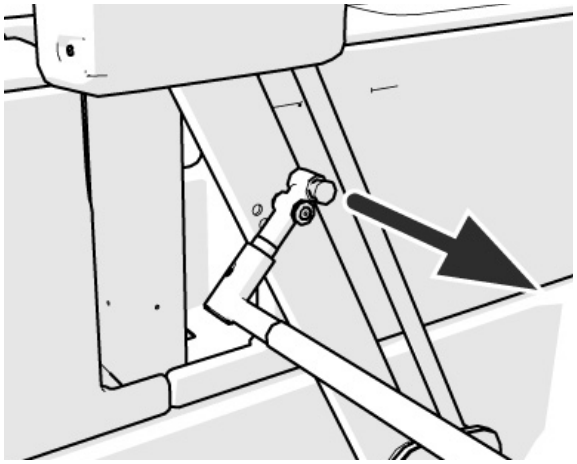
昇降手すり

入浴者が座面で入浴される際、立ち座りやリフト昇降中の姿勢安定のため、手すりを備えています。入浴者に合わせて高さが 2 段階で調節でき、リフトの向きに合わせて左右に位置を切り替えることができます。また車椅子入浴の際には折りたたむことができます。

位置調節

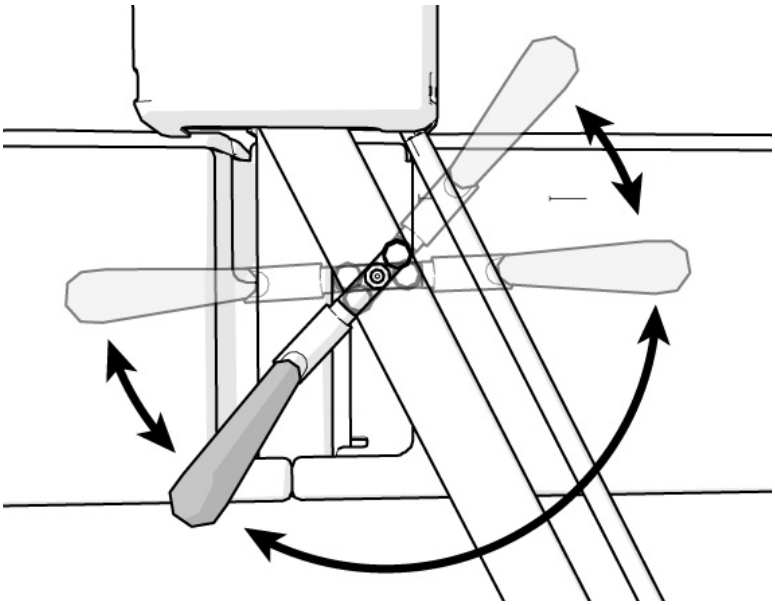
1. ロックを解除します。

手すりに付いているつまみを引き、ロックを解除すると手すりが回転するようになります。



2. つまみを戻し、ロックします。

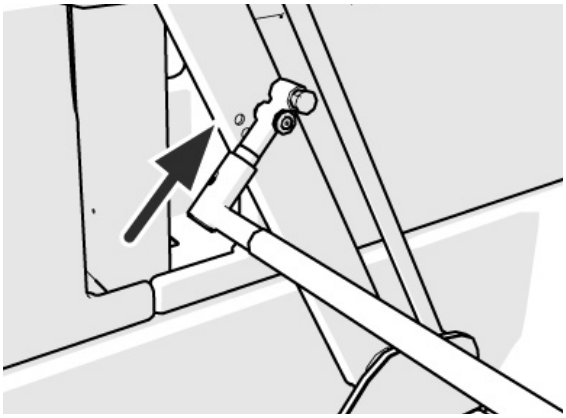
手すりが固定されているフレームに 4 か所の穴があり、
その 4 か所の位置で手すりを固定することができます。
位置を変えるときは、手すりを下方へ回転させてください。



操作方法／昇降手すり

折りたたむ

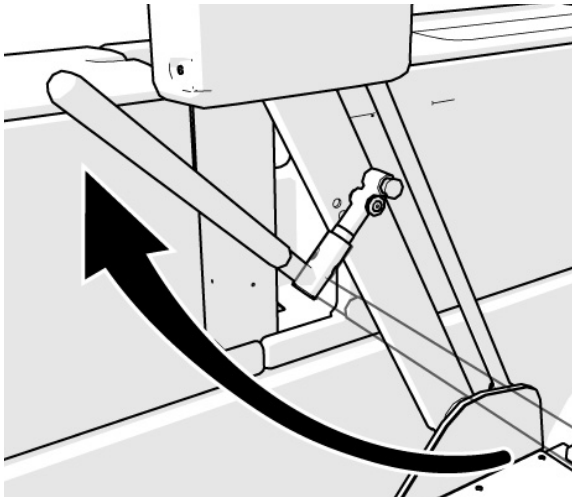
1. 手すりの根元を押し込むとロックが外れます。



2. 手すりの根元を押し込んだまま、上方へ回転させてください。

根元から手を離して上限まで回転させると手すりはロックされます。

手すりを水平に戻すときも、根元を押し込んで下方へ回転させます。根元から手を離して水平まで回転させるとロックされます。



⚠**警告**　**昇降手すりがしっかりロックされ、回転しないことを確認する**

しっかりロックされていないと、入浴者がつかんだ際に回転し、転倒する恐れがあります。

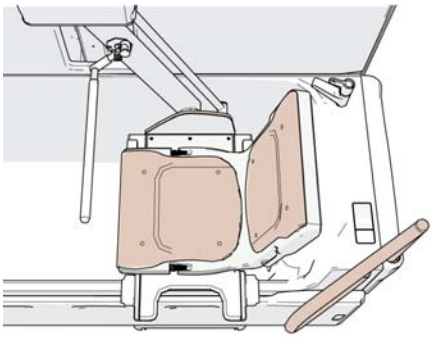
操作方法

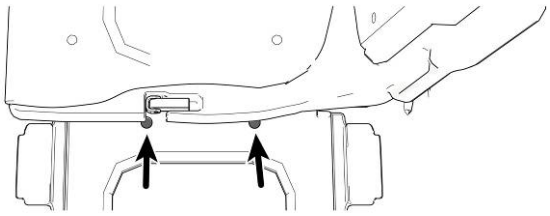
座面

座面にはロック機構が付いており、入浴者の立ち座りの際に動いてしまうことはありません。
また車椅子入浴の際には容易に取り外すことができます。

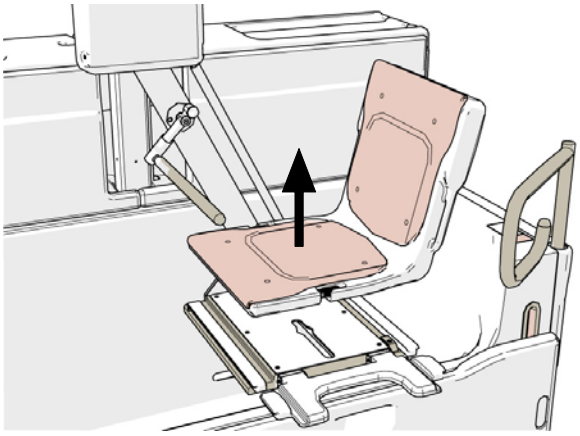
座面を取り外す

1. 座面を横向きにし、座面の側面を目印に合わせます。



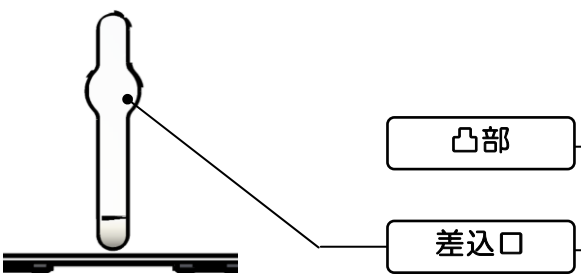


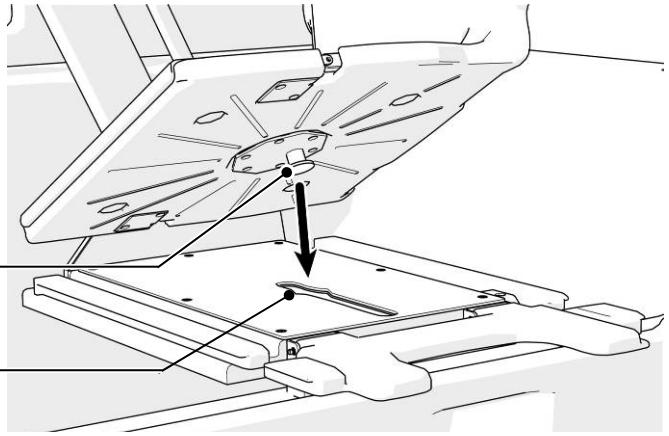
2. 座面を上に持ち上げ、取り外します。



座面を取り付ける

座面の裏面にある凸部を、昇降リフトの
差込口に差し込んでください。

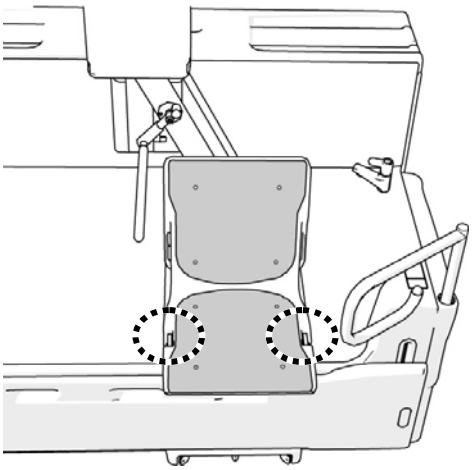




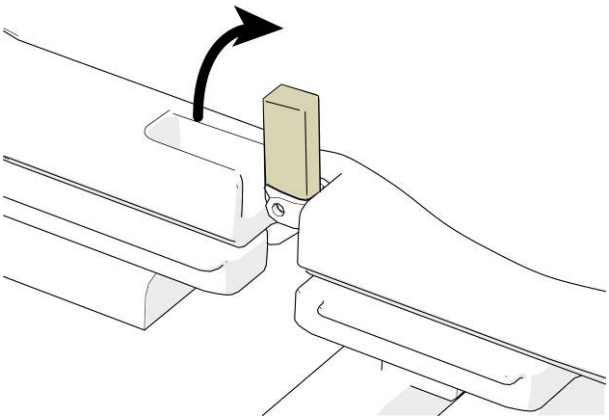
操作方法／座面

座面のロック

1. 座面を手前に最後まで引き出し、正面に向けます。

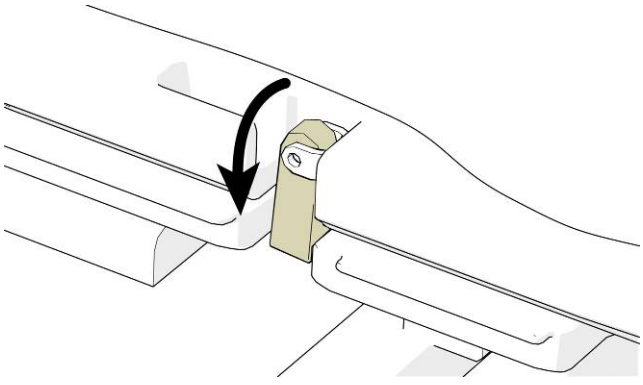


2. 座面の両側にあるロックピンを回転させて、立てます。



3. 立てたロックピンを溝に入るように外側に倒します。

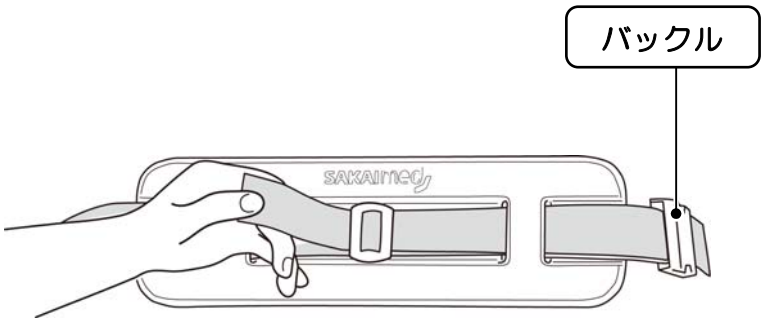
左右 2 か所にロックピンがありますので、両方とも行ってください。



操作方法

安全ベルト

入浴者の姿勢安定のために安全ベルトを備えています。
入浴者が座面に座ったらパッド付き安全ベルトのバックルをはめ、入浴者に合わせて
長さを調節します。



⚠ 警告

・入浴者が座面に座ったら、安全ベルトを使用する

ベルトをしなかったり、ベルトをゆるめ過ぎるなど固定が適切でないと、
身体がずれて落下したり、ベルトの端面やバックルで擦れてけがをする恐れがあります。

・安全ベルトを外したときには、入浴者のそばから絶対に離れない

安全ベルトを外した場合、落下する恐れがありますので、とっさの対応が出来るように入浴者のそばから離れないでください。体位変換後や移乗後は直ぐに安全ベルトを着用してください。

⚠ 注意

・皮膚の弱い入浴者の場合、接触部分にタオル等を使う

皮膚が薄くなり、弱くなっている入浴者の場合には、安全ベルトやマット等への軽微な擦れで皮膚が傷つく恐れがあります。入浴中や入浴後はさらに皮膚が柔らかくなって、けがをしやすくなりますので接触部分にタオル等を巻いてください。

・安全ベルト・バックルの損傷に注意する

安全ベルトの身体固定力が低下すると、思わぬ事故の原因となります。またほころびた部分や破損した部分で皮膚が傷つく場合がありますので注意してください。ほころび始めたり、
破損しかかったりしたときは新しい安全ベルト・バックルと交換してください。

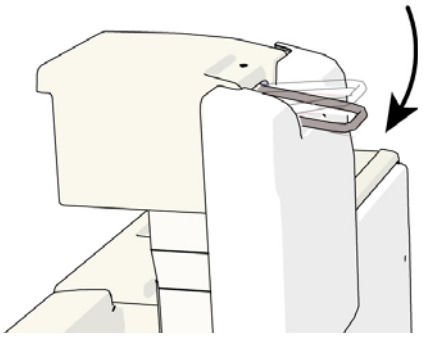
操作方法

昇降リフトの左右切り替え

入浴者の容態に合わせて、昇降リフトの位置を左右に切り替えます。

1. リフト切替レバーを押し下げます。

リフト切替レバーを押し下げると、
昇降リフトが中心あたりに移動してきます。

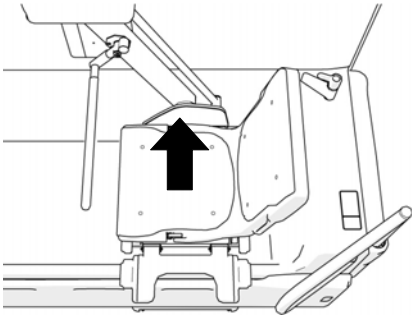


⚠ 警告　昇降リフトの左右切り替えをするときは、浴槽内に入らない

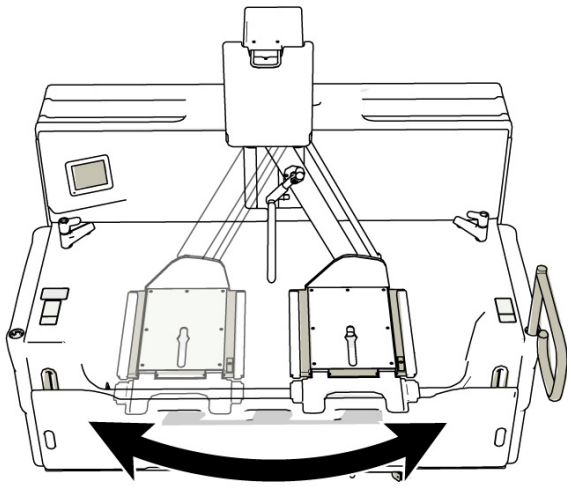
ロックが外れて動いてきた昇降リフトに当たり、
けがをする恐れがあります。

⚠ 注意　座面を設置したまま昇降リフトの左右切替を行うときは、浴槽の奥まで押し込む

奥まで押し込まれていないと、
浴槽にぶつかり破損する恐れがあります。

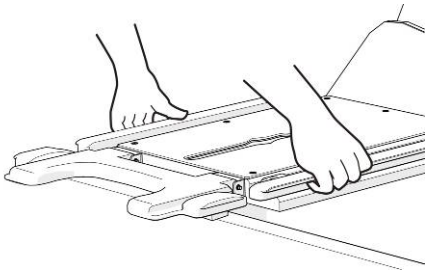


2. しっかりロックされるまで左、または右に昇降リフトを移動します。



⚠ 注意

昇降リフトを左右に移動するときは、
レールを持って動かす



操作方法

操作パネルの見方

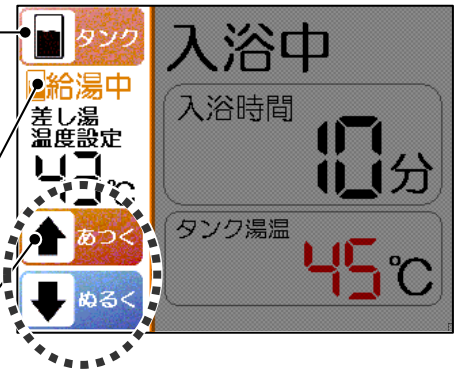
共通画面

操作パネルの画面左側に常に表示されている部分です。

タンク機能画面（P.39）…タンク給湯に関する操作の画面を表示します。

タンク給湯中表示…タンク給湯中は点滅し、停止中は消灯します。

差し湯温度設定（P.42）…差し湯の温度を変更できます。

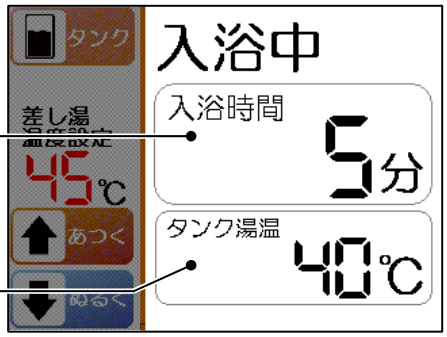


入浴中画面

本製品では浴槽の扉が閉まっており、且つシールしている状態を「入浴中」としています。

入浴時間…シール完了後からカウントします。
20 分までカウントします。

タンク湯温…現在のタンク内のお湯の温度を表示します。

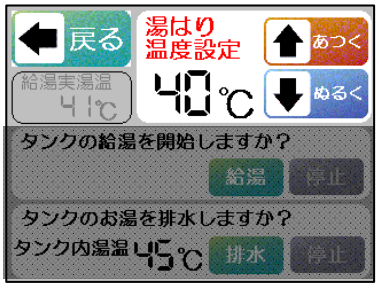


タンク機能画面

タンクへの給湯・排水などを操作します。

1. 給湯設定温度を変更します。

「湯はり画面」（P.22）と同様に[あつい]・[ぬるい]を
タッチして設定温度を変更します。
画面左（枠内）には実際に給湯されているお湯の温度が
表示されます。



2. タンクへの給湯を開始/停止します。

本画面でタンクへの給湯を開始した場合、タンク満水時でも、
浴槽へ湯はりは行われません。

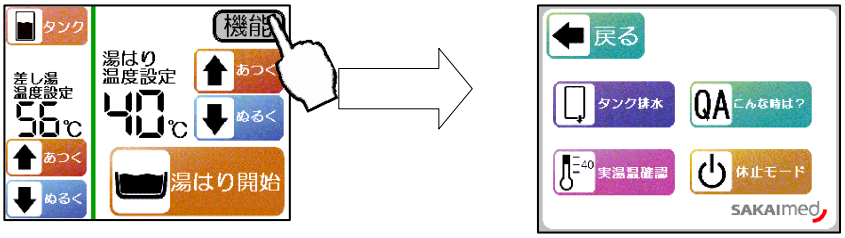
3. タンク内のお湯を排水/停止します。

タンク給湯中に、[排水]を選択した場合、タンク給湯は
停止します。

操作方法／操作パネルの見方

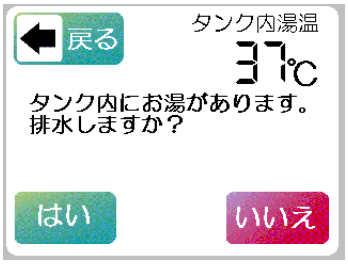
機能画面

「湯はり画面」右上の機能をタッチして「機能画面」を開きます。



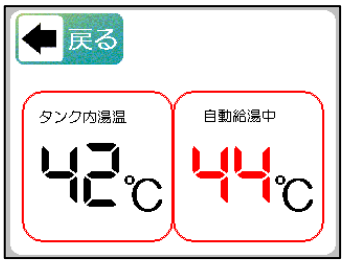
タンク排水

タンク排水を手動で行います。



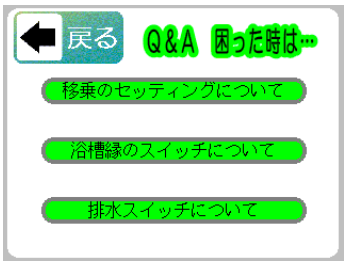
実湯温確認

実際のタンク内の湯温（画面左）、給湯中の温度（画面右）をリアルタイムで表示します。



Q&A

移乗セッティングの手順や、各種スイッチの説明を読むことができます。



休止モード(P.19)

浴槽の電源を切ります。

※節電のため、電源 OFF 後は配電盤内にある専用の安全ブレーカーも OFF にすることを推奨いたします。

たし湯（入浴中のみ）

たし湯スイッチを押している間、タンクから湯を送ります。

入浴中、湯量が足りない場合に使用します。入浴中以外は使用できません。

タンク内のお湯が無くなると、たし湯は使用できません。

お湯をさらに追加したい場合は、差し湯（P.42）を使用してください。

操作方法／操作パネルの見方

差し湯

湯加減の調整に使用します。
水、及び 25℃～50℃まで幅広い温度設定が可能です。

1. 操作パネルで温度を設定します。

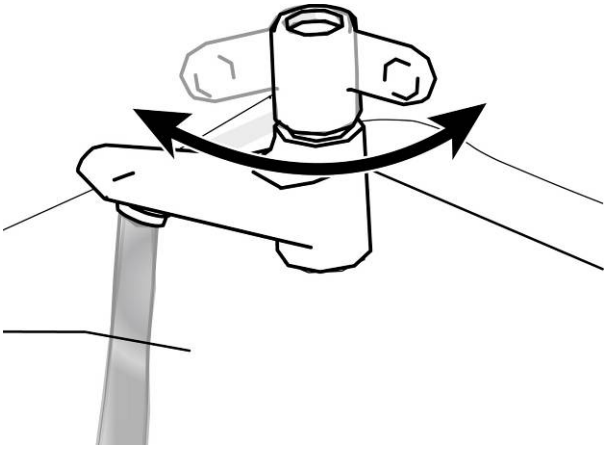
あつく、ぬるくをタッチして設定温度を変更してください。
ぬるくを 2 秒以上タッチすると「水全開」設定になります（右図下）。解除するにはあつくを 1 度タッチしてください。

参考

施設の給湯設備や季節によっては「水全開」設定にした場合でも、差し湯温度が 24℃以下にならない場合があります。

2. ハンドルを操作し、お湯を出します。

差し湯中はタンク給湯が一時停止します。



⚠ 警告

- **差し湯の使用中や使用直後にも、カランや吐出口付近に手や足を近づけることのないよう確認する**
- **差し湯を出したままにして入浴者から離れない**
- **高温のお湯を使用した後は、設定温度を適温に戻す**